

自由民主党所属
西宮市議会議員

田中まさたけ

正 剛



<http://masatake.jp/>



田中まさたけ 検索 市政・市議会報告

西宮が魅力ある文教住宅都市であり続けるために。

これまで先人が創ってきた西宮は、多くの方から高評価を得て、近年、人口は増え続けてきました。

これからの西宮市も、その評価に背くことのないようまちづくりを進める必要があります。

私も、先般の選挙でいただいた4136票の信任の重みを忘れることのないよう、

皆様の声に基づいて、西宮の一層の魅力向上のために、政策を提言してまいります。

一般質問

4期目の任期最初の議会となる6月議会で、早速一般質問を行い、これからも住みたい街として選ばれる西宮であり続けるために、①人口ピジョンと少子化対策、②スポーツ推進によるまちの活性化と施設整備、③快適な生活環境の確保について議論致しました。

■ 少子化対策の見直しが急務

西宮では、近年人口が増加したものの、出生数は減少の一途をたどり、合計特殊出生率は、全国や県の平均よりも低くなっています(中面にグラフ)。これは、様々な要因が考えられますが、

- ・希望する保育所や幼稚園に入れない、
- ・兄弟を同じ保育所に預けられない、
- ・子どもの医療費助成をはじめ子育て支援関連の助成金の所得制限によって、ぎりぎり対象とならない家庭にとっては負担が非常に重くなる、

といったご意見を伺います。子育てにおける不安を感じている方が多い状況です。今回の質問では、現在の子育て支援政策について、少子化対策の観点から検証し、人口ピジョンの策定を機に既存の計

画や施策を見直すべきではないかと問題提起しました。市は、地域によって差がある保育需要等に対応できていないことや転入世帯への情報発信のあり方に問題があるとし、その他考えられる要因を細かく分析し、今後の施策をより効果的に推進できるよう努めると回答しました。

私は、市役所がお役所仕事で制度を設計して、子育て支援策を生活目線で考えられていないことが、大きな要因ではないかと考えています。『子育てするなら西宮』を標榜し、子育て世代が増加した西宮市には、国の少子化対策に貢献する責務があります。今後制度を検証し、出生数や出生率の増加を目標に、問題を指摘しつつ、政策を提言してまいります。

人口政策

市のすべての政策は、財政見込みと人口政策が前提となるべき。その人口政策が、国の方針でようやく策定されることになりましたが…。

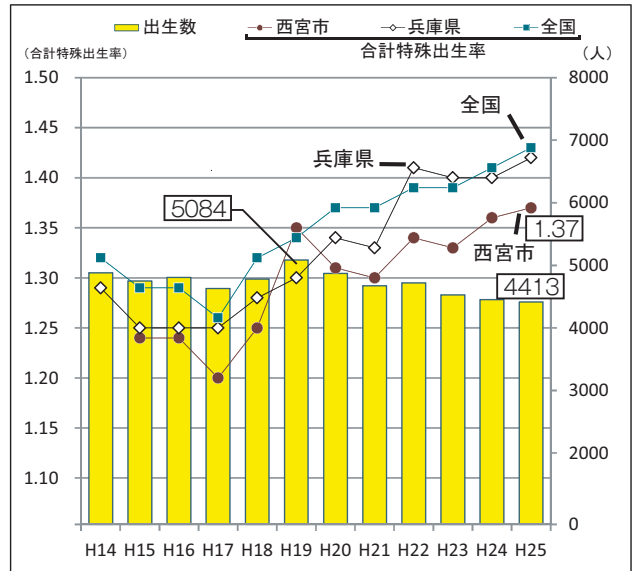
私は、平成24年12月議会以来、20年から30年後の人口動態を想定して、すべての政策の前提となる将来ビジョンを策定すべきと提言してきました(第35号参照)。そして昨年、「まち・ひと・しごと創生法」が制定され、自治体でも地方版人口ビジョン(※)と総合戦略が策定されることとなりました。

西宮でも、医療・介護の諸問題のほかに、ゴミ出しや買い物、道路環境や移動手段などの生活上の課題など、高齢化による様々な課題が生じると予想されます。これらに対応するための計画と財源の準備が急務です。そこで、今回の質問では、人口ビジョンに対して、一刻も早く対応するために、少子高齢化に係る市の既存計画も見直すべきと提言しました。しかし、市長は、人口ビジョンは長期的な展望を示すだけで、現在の短期の各種計画を見直す考えはないと回答し、従来の場当たり的な市政運営の姿勢が露呈しました。このままでは、近い将来、問題が噴出することが懸念されます。

今秋に示される素案を注視してまいります。

※) 地方版人口ビジョン: 2060年までの各自治体の人口動向や将来人口推移を分析し、目指すべき将来の方向性や施策の方向性を踏まえた人口の将来展望を示すもの。

■ 図1：合計特殊出生率と出生数の推移



スポーツ推進

スポーツによるまちの活性化には、施設や環境の整備が不可欠です。学校の体育館の一層の活用についても提言しました。

■ トップスポーツに対応した中央体育館へ

私はこれまで、西宮市のスポーツ政策について数々の問題提起と政策提言をしてきました。市は昨年、スポーツ推進計画を示し、スポーツ環境の向上に力を入れ始めています。また先般、プロバスケットボールチームのホームタウンにも選ばれ、一層のまちの活性化が期待されます。現在、市立体育館の利用率(昨年10月)は、平日19時~21時の時間帯で軒並み90%以上と大変高く、室内スポーツが盛んに行われています。現在のまま、プロスポーツの試合会場として中央体育館を使用すると、市民スポーツの枠が減少するとともに、観客席や駐車場も圧倒的に不足します。また、周辺交通渋滞も懸念されます。そこで、老朽化が著しい中央体育館の再整備が急務と考え、施設整備の方針を質問しました。市は、トップスポーツの開催に対応し、市民大会等も円滑に行える施設機能

や規模に合った駐車場などの整備を検討中との意欲的な考えを示しました。

■ 既存施設の活用が不可欠

既存施設の活用の観点から、以前より、学校施設の有効活用を提言してきました。そして、市内に60か所ある小・中学校の体育館に着目し、調査したところ、平日夜間の地域等の利用状況は、小学校で約60%、中学校では約10%とまだ使える余地があることが判明しました。そこで、不足している市立体育館の補完的役割を担うべく、学校教育活動を阻害しない範囲で、これまでの地域利用に加えて、学校体育館の一般利用を促す管理体制を構築すべきと提言しました。教育委員会からは、1年間で、利用者調整や施設など施設管理上の課題などを整理し、検討すると回答しました。引き続き、健康・健全なまちづくりのために取り組みます。

防犯

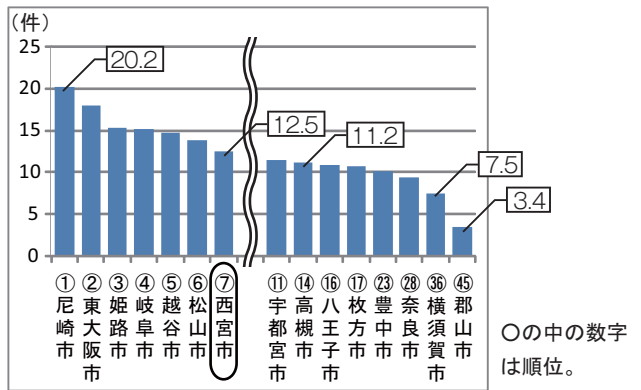
現在、防犯カメラの設置が議論の焦点となっています。市は、県や地域活動の補完的役割を果たすにとどまり、消極的と言わざるを得ません。

■ 防犯計画を策定し財源を確保すべき

西宮市内の刑法犯認知件数は、平成14年に13,972件であったものが、平成25年には6,005件と大幅に減少しています。しかし、全国的に凶悪犯罪が報道される中、図2のとおり、他の中核市と比較すると、千人あたりの件数は、45市中7番目に多くなっています。ですので、私は、市による防犯カメラの設置が急務であると考えています。しかし、市は地域主体による設置を促すため、来年度より補助金を創設する方針を示しています。既存の補助金の活用状況を鑑みると、地域住民の金銭的負担が重ければ、設置が進まないのは明白です。また、機器やデータの管理責任も負わなければならないと住民合意の障壁ともなり得ます。よって、補助金で対応するにしても、せめて住民の負担と責任をなくすべきであり、そのための財源を確保するべく計画やその他の防犯対策に関する今後の市のビジョンを明示すべきと主張し、市の見解を質問しました。市は、県の条例に則り、県や警察の防犯施策に協力し、市民や地域団体と連携して、地域の防犯活動を推進すると回答し、県や住

民任せで極めて消極的であることが露呈しました。防犯力の向上には、市民一人一人の意識向上が不可欠ですが、その前に、市の意識を変える必要があります。防犯カメラの設置をはじめ、各種防犯対策を計画的に強化し、治安のよい安心安全の文教住宅都市をつくるべきです。

■ 図 2：人口千人あたりの刑法犯認知件数（平成25年・中核市 45 市比較）



(参考)		全体	13.03	北区	6.26	
芦屋市	8.93	神戸市	東灘区	10.82	長田区	17.51
伊丹市	14.87		灘区	12.30	須磨区	9.53
宝塚市	8.82	中央区	34.86	垂水区	8.61	
川西市	11.49	兵庫区	20.90	西区	11.17	

生活環境

最近、カラスや所有者のいない猫に関する苦情が多く寄せられます。皆さんのご意見・お悩みを解消するための政策も提言します。

■ ゴミステーションでのカラス被害対策

西宮市では、ゴミステーションのカラス被害は後を絶たず、私のもとにも多数のご意見が寄せられています。そこで、他市の事例を参考に、カラスによる被害を防止し生活環境を守るために、ゴミ出しマナーを守らない市民への指導権限を規定した条例を制定すべきと主張し、市の今後の対応を質問しました。市の回答では、条例制定については消極的でしたが、生息実態を把握し、巢の撤去の強化や試験的な捕獲を検討すると一歩前進の考え方を示しました。引き続き、条例の議員提案も含め、現



場主義で政策提言してまいります。

■ 所有者のいない猫対策

野良猫を減らす対策として、市内各地でボランティアの方々によって去勢手術の実施などの地域猫活動が実施されています。しかし、無責任な餌やりをする人や、猫の糞尿、悪臭、鳴き声などに悩まされている方から苦情が寄せられます。今回の質問で、市は、「所有者のいない猫対策活動指針」によって、無責任な餌やりを禁止し、餌を与える場所を決めて清潔に保つこと、トイレを設置して糞尿の清掃をすることなど一定のルールを定めており、今後、このルールを徹底すると明言しました。今後も快適な生活環境の確保に向けて取り組みます。

交通政策

～高齢化に対応できる政策への転換を目指して～

これから1年間、道路整備のあり方と自転車の安全対策について、重点的に取り組みます。皆様のご意見ご感想等をお寄せください。

■西宮市総合交通戦略 —住宅都市だからこそ、人口減少・高齢化に対応した交通政策を!—

平成20年12月議会において、住宅都市でありながら総合的な交通政策が存在していないことを指摘し、今後の少子高齢化、人口減少社会を見据えた交通政策として、計画を策定するよう提言していました。市もその必要性を認め、現在、西宮市総合交通戦略の策定作業が進められています。公共交通の利便性向上、歩行者の安全対策、自転車の安全対策、渋滞解消、道路の整備や維持管理など、多額の財源と時間も要することから、将来ビジョンを掲げて、財源を確保しながら計画的かつ効率的に取り組む必要があります。掲げた政策目標の実現に向けて取り組んでまいります。

■自転車の安全対策 —建設常任委員会の施策研究テーマに選ばれました。—

昨今の議会改革の一環として、各常任委員会において、1年間の「施策研究テーマ」を設定して、集中的に議論し、提言することになっています。そして、今年度の建設常任委員会のテーマが、都市計画道路（の整備方針）と交通安全対策（自転車関連）が選ばれました。人口増に伴い、市内での自転車事故も後を絶ちません。条例による自転車マナーの向上策など、政策を提案するべく、研究・議論してまいります。是非とも、皆様からのご意見や危険箇所に関する情報等をお寄せください。

議会活動:今後1年間の議会内での担当

6月から引き続き、建設常任委員会（土木局、都市局、上下水道局）を担当することになりました。

また、阪神水道企業団の議会議員（西宮市議会から1名）にも選出されました。安心安全の観点から、水道の安定供給と経営問題に力点を置いて、取り組んでまいります。皆様からのご意見もお待ちしています。

約束のかたち:「市政・市議会報告」の発行の継続



○第42号 「子育てするなら西宮」

次世代を担う「人」を育成する文教住宅都市を目指して、環境整備を提言してきました。

・掲載内容:学校建替えの順番/少子化対策/スポーツ政策/子どもの居場所づくりなど

発行責任者

田中正剛 たなか まさたけ

昭和50年7月生まれ/大阪府立四条畷高等学校、神戸大学工学部卒業/元市議員事務所に4年間勤務/平成15年4月に西宮市議会議員選挙初当選（27歳）

■政党:自由民主党 ■現在の担当常任委員会:建設常任委員会 ■市議会での主な役職:建設常任委員会副委員長（1期2年目）、厚生常任委員会委員長（1期3年目）、西宮市監査委員（2期1年目）、フレンテ問題特別委員会委員長（2期3・4年目）、病院問題特別委員会委員長（3期1・2年目）、阪神水道企業団監査委員（3期3年目）、副議長（3期4年目）

事務所を移転しました

ご意見・ご要望は、以下の連絡先までお願い致します。

〒662-0854 西宮市櫛塚町3-4

西宮グローリービル304号

TEL: 0798-22-5172

FAX: 0798-22-6172

E-mail: nishinomiya@masatake.jp

URL: http://www.masatake.jp

